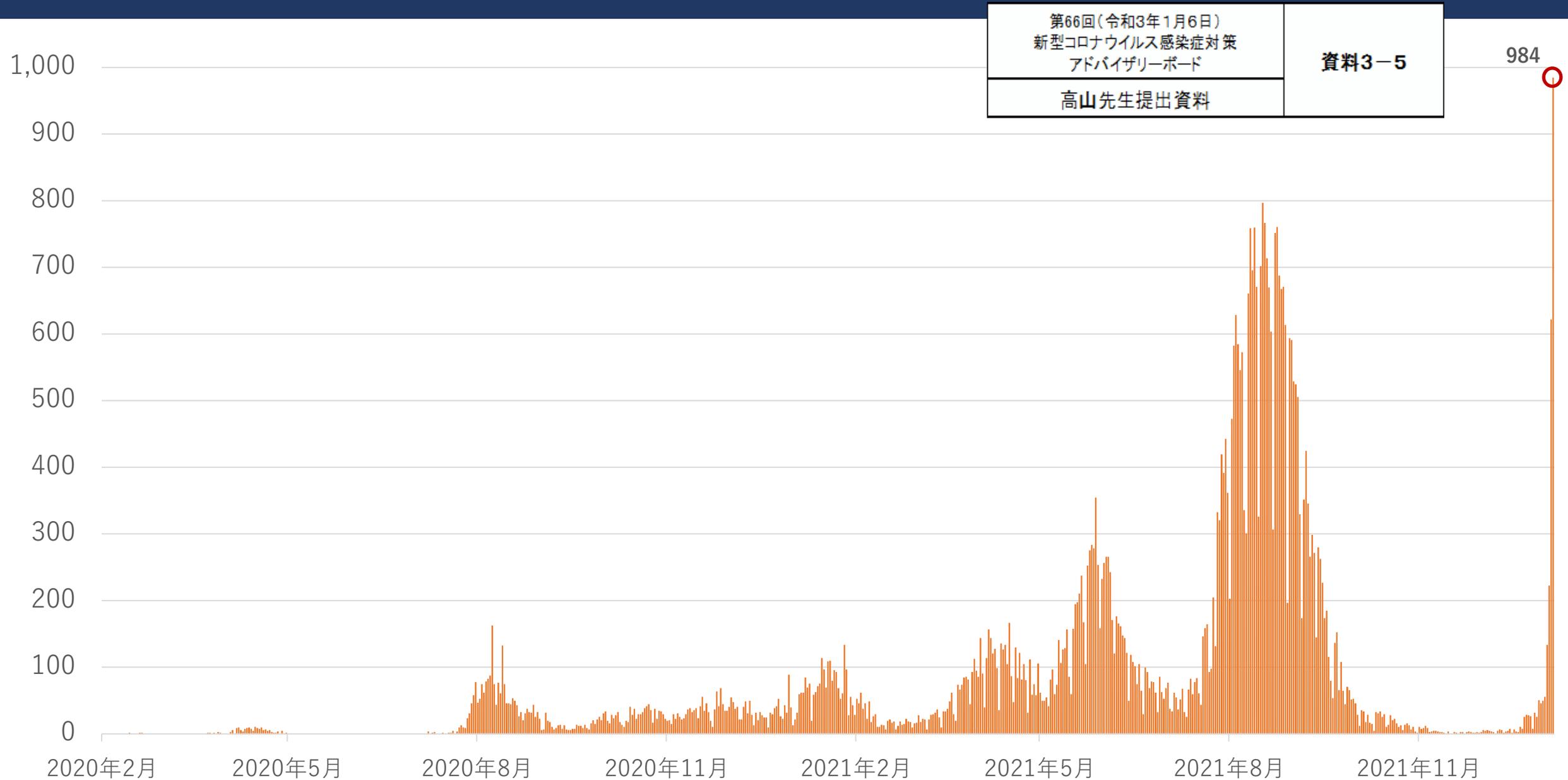


図1 沖縄県における新規陽性者数の推移



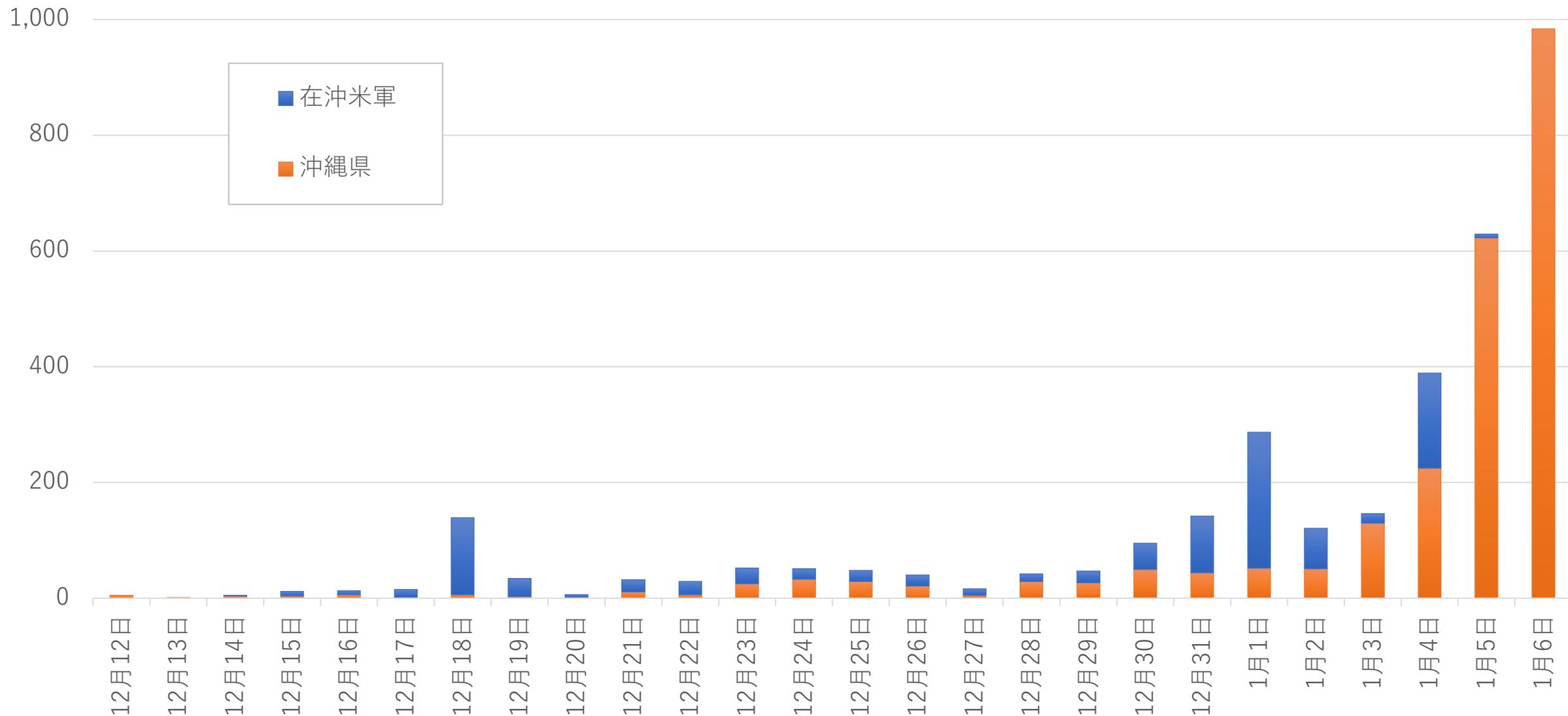
第66回(令和3年1月6日)
新型コロナウイルス感染症対策
アドバイザリーボード

資料3-5

高山先生提出資料

984

図2 沖縄県内における新規陽性者数の推移



データは在沖米軍公表および沖縄県報告に基づく

図3 性年齢階級別に見る陽性者数 (12月29日~1月4日)

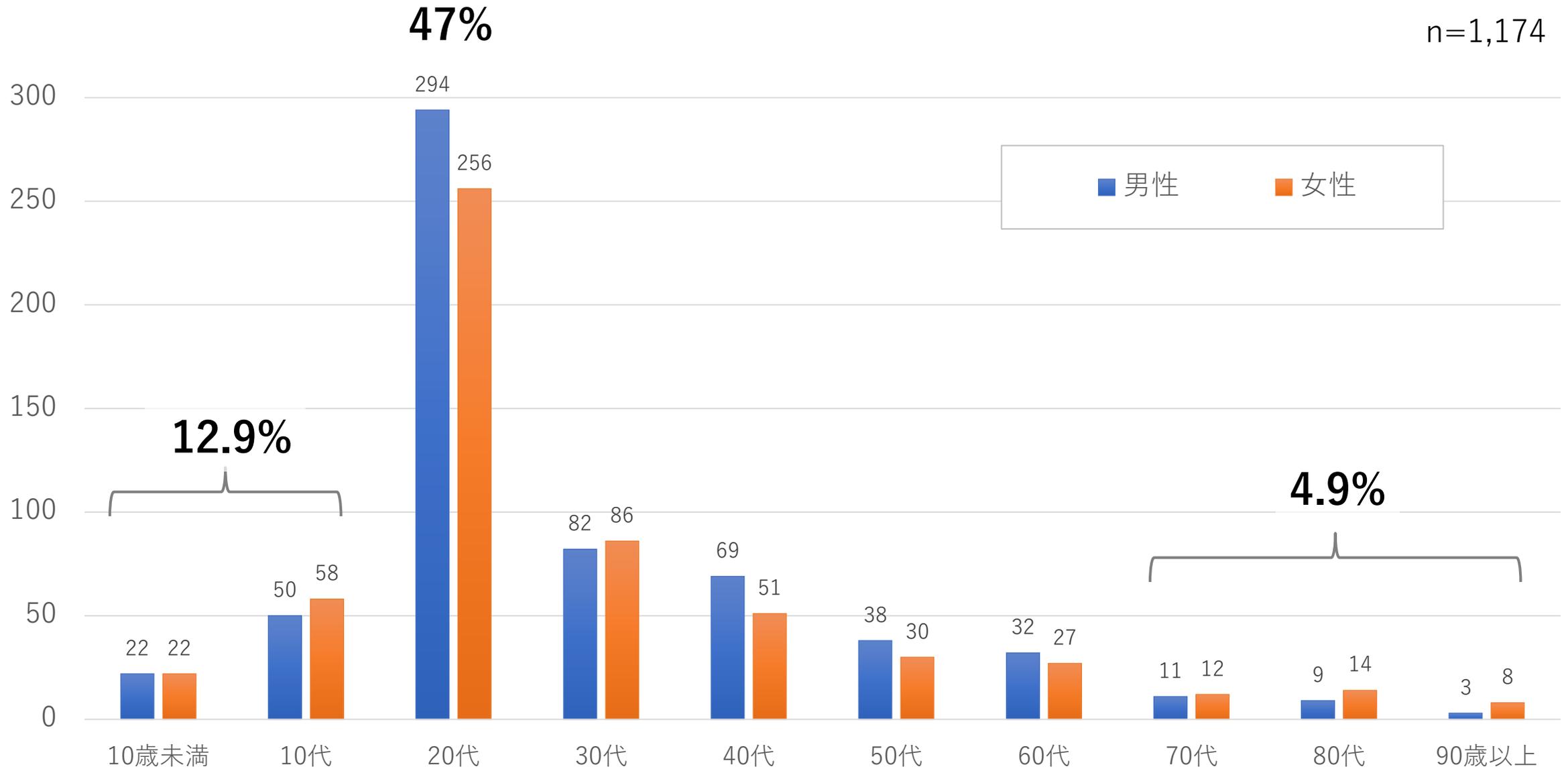


図4 新規陽性者のワクチン接種歴 (12月29日～1月4日)

n=1,174

ブレイクスルー感染が占める割合

62.4%

19.7%

40.1%

39.1%

22.7%

36.8%

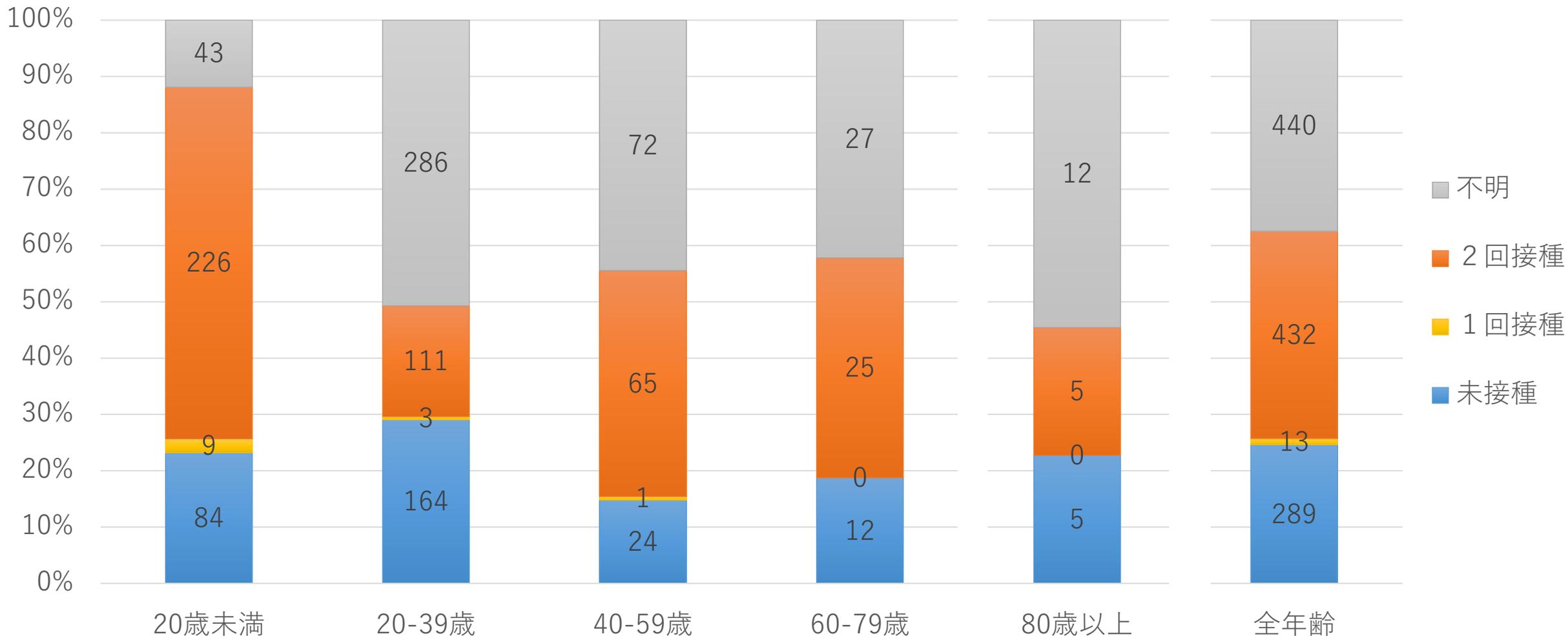


図5 急速な陽性者数増加の要因（沖縄県）

在沖米軍における大規模流行

もともと、12月から沖縄県ではオミクロン株は流行していた（島レベルでは突然ではない）

年末年始の人の移動と接触

2年ぶりに親族が再会するなど、今年の正月は特別（濃密）だった。

連休が終わり検査体制が回復

休日から平日体制に戻って、医療機関や検査所が再開した。

無料化により検査アクセスが向上

費用負担がなくなったことで、若者層が検査を受けやすくなった。

連休明けに心配した県民が受検

無料となったこともあり、職場からの指示などで仕事始め前に検査所を訪れた。

図6 オミクロン株陽性者の症状

沖縄県において2022年1月1日までに診断した50人について、保健所の疫学調査に基づき集計

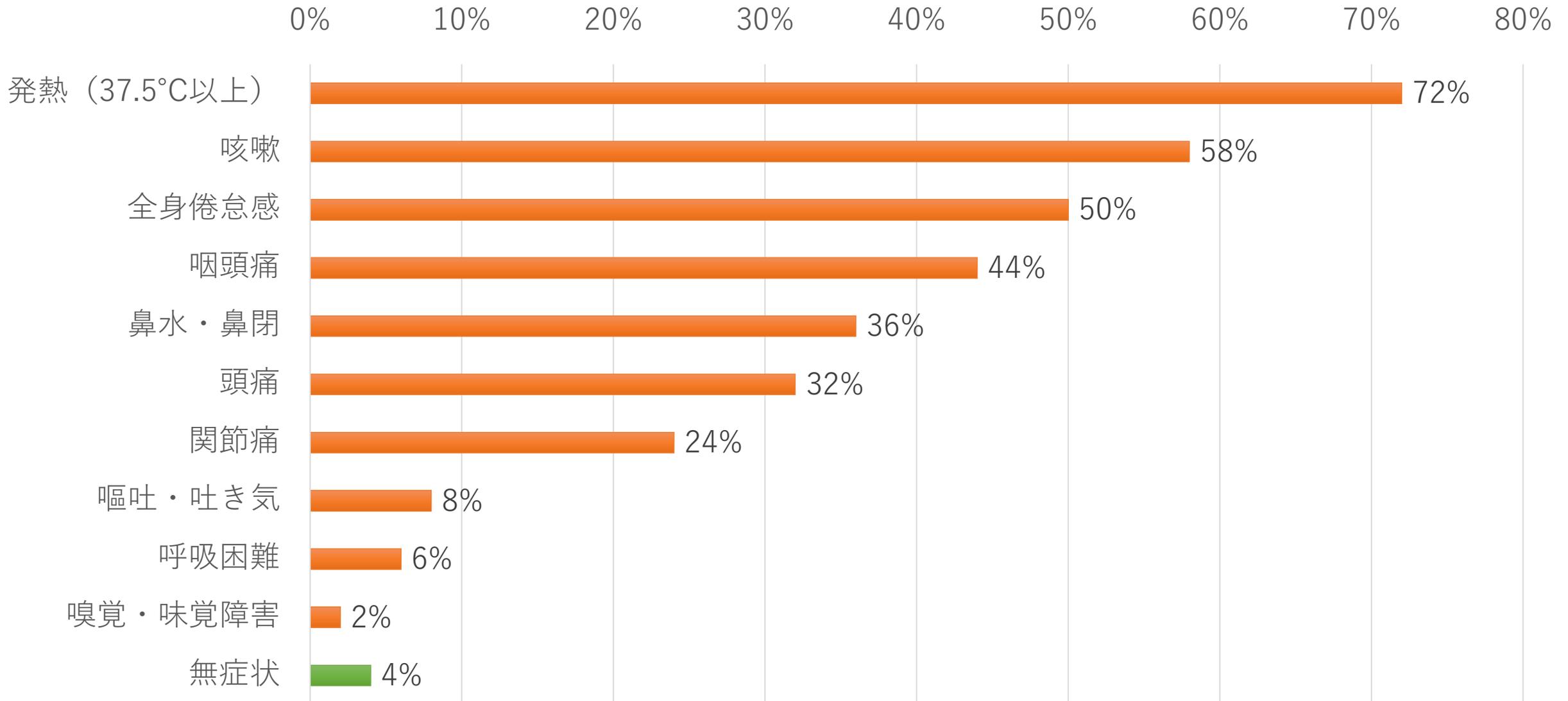


図7 新規陽性者数および重症度別入院患者数（沖縄県）

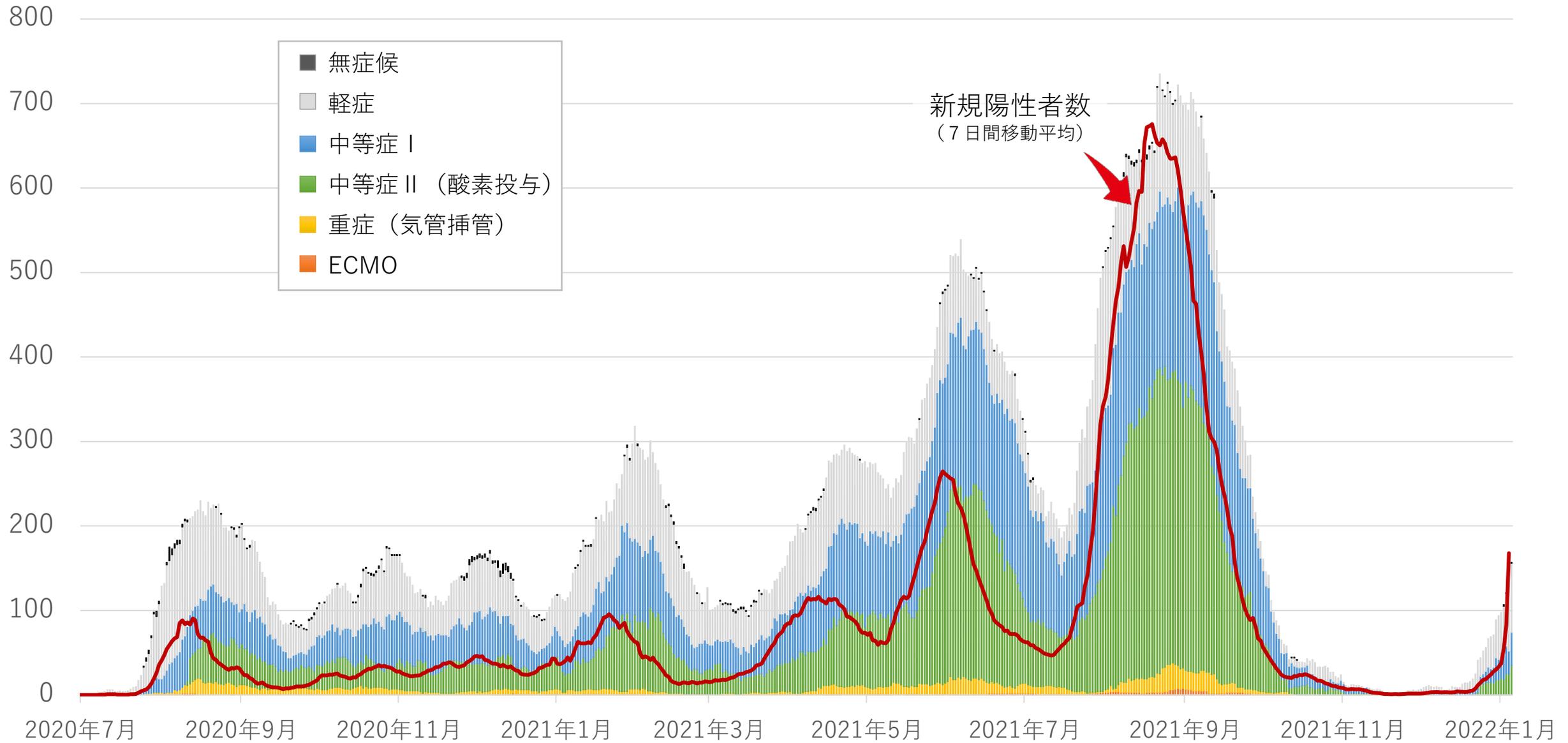


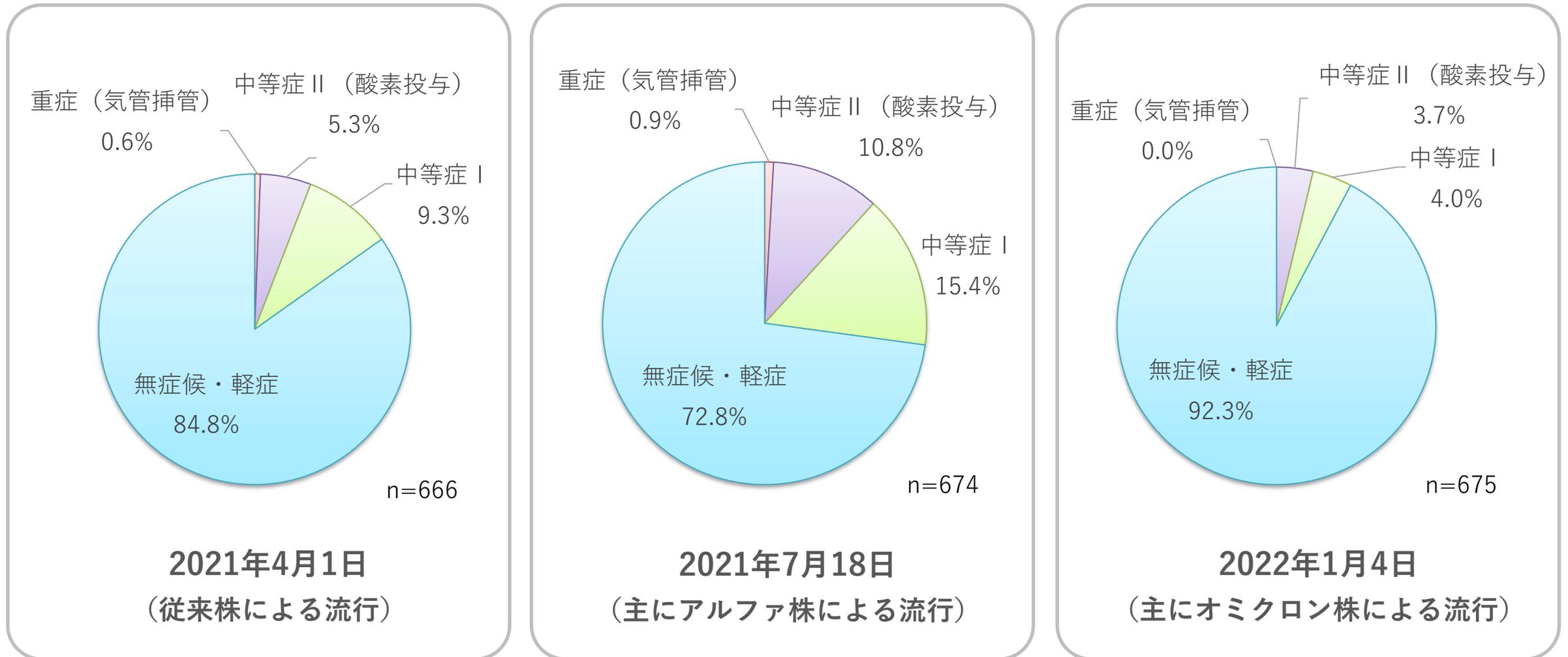
図8 療養場所と重症度別の療養者数（沖縄県）

2022年1月4日時点

療養場所	重症度	療養者数	
入院	ECMO	0	0.0%
	重症（気管挿管）	0	0.0%
	中等症Ⅱ（酸素投与）	25	3.7%
	中等症Ⅰ	27	4.0%
	軽症	83	12.3%
	小計	135	20.0%
ホテル	無症候・軽症	271	40.1%
自宅	無症候・軽症	57	8.4%
調整中	無症候・軽症	212	31.4%
合計		675	

図9 感染拡大期における全療養者の重症度（沖縄県）

全療養者数が650人を超えた時点における療養者の重症度



療養者の年齢分布、感染拡大の速度が異なるため、必ずしも変異ウイルスの病原性の比較とはならないことに注意

図10 病床使用率と重症者用病床使用率（国基準）



図11 重点医療機関における医師、看護師の休職数

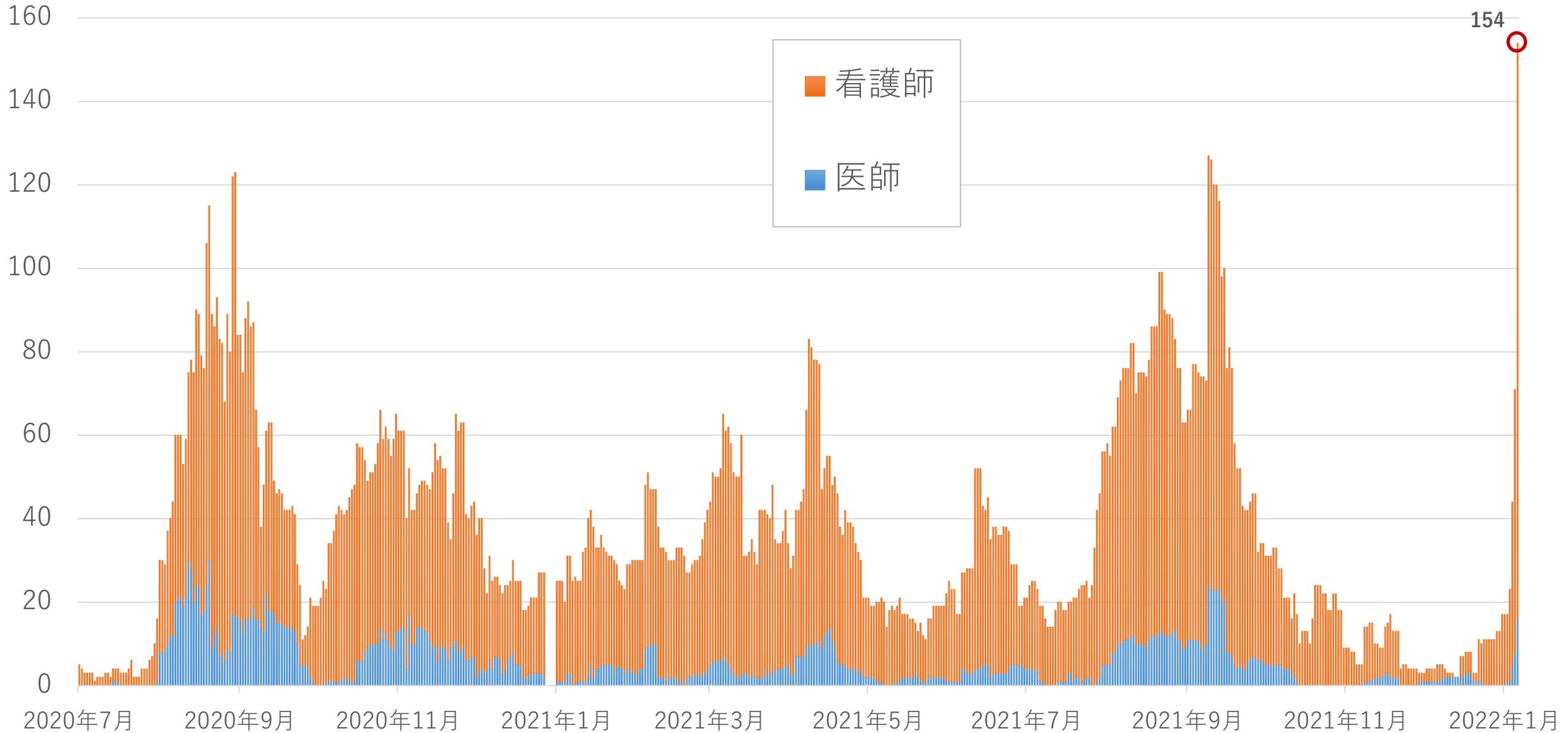


図12 沖縄県における流行状況と求めたい施策

- オミクロン株の病原性が低下している可能性はあるが、発生早期のため重症化していないことも考えられる。また、若者中心の流行であるため、現時点では高齢者における病原性の評価は困難である。
- 病原性が低下していたとしても、感染者数が過大となれば中等症以上の患者数が増加し、病床が確保できなくなる可能性がある。軽快した患者の早期退院が可能となるような基準緩和が求められる。
- 感染者または濃厚接触者となることで、就労できない医療従事者が増加している。病床利用率だけでなく、人員確保の側面からも医療ひっ迫の状態を評価する必要がある。
- 軽症者が多発する大規模流行により、濃厚接触者となって働けない社会機能維持者が増加しはじめている。医療・介護従事者を含めて、PCR検査で陰性を確認することにより就労可能となる基準が求められる。